

9月24-25日、国連において「SDGサミット2019」が開催され、日本からは安倍総理が出席。同サミットは、首脳レベルでSDGs採択以降過去4年間の取組のレビューを行い、SDGs達成のモメンタムを高めるために開催。グテーレス事務総長、ムハンマド=バンデ総会議長、各国首脳、国際機関の長が出席し、「SDGサミット政治宣言」を採択した。

安倍総理によるステートメント概要

- 人間の安全保障の理念に基づき、「誰一人取り残さない社会」を実現するため、**G20大阪サミット等において、環境、教育、保健、質の高いインフラ投資等の取組を主導。**
- 過去4年間、「SDGs推進本部」本部長として、「ジャパンSDGsアワード」や「SDGs未来都市」等、オールジャパンでSDGsを推進。**次のSDGサミットまでに取組を更に加速させる。**
- 今後の取組の鍵は、民間企業、地方創生、強靱かつ環境にやさしいまちづくり。
- **本年12月までに「SDGs実施指針」を改定し、進化した日本の「SDGsモデル」を示す。**



国連側出席者の主な発言

グテーレス国連事務総長

政府、民間、ビジネス、金融、市民社会、若者が行動を起こし、取組は進展したが、**あるべき姿からは程遠く**、いま取組を拡大しなければならない。**2030年までをSDGs達成に向けた「行動の10年」と**するため、(1)グローバルな取組、(2)ローカルな取組、(3)人々の行動(市民社会、メディア、アカデミア、若者等)が重要。今後、「行動の10年」を進めるためのプラットフォームを毎年開催。2020年9月に第1回会合を開催。

ムハンマド=バンデ国連総会議長

SDGs達成に向けた多大な努力を賞賛する一方、**達成状況に偏りや遅れがあり、取組の加速化が必要**。資金を確保し、貧困撲滅や教育に焦点を当て、2030アジェンダを主流化することが重要。一義的な責任を有する政府と、民間セクター、ユース、市民社会とが、**互恵的なパートナーシップを構築しなければならない**。

「SDGサミット政治宣言」概要

- (1) **SDGs達成に向けたコミットメントの確認**
- (2) **現状分析**(極度の貧困、子どもの死亡率、電気・水へのアクセス等で進展。他方、飢餓、ジェンダー、格差、生物多様性、環境破壊、海洋プラスチックごみ、気候変動、災害リスクへの対応に遅れ。)
- (3) **アクションの加速化**(資金、実施体制、地域の取組、強靱性構築、STI、統計等)

